

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年5月13日（月）～令和元年5月19日（日）〔令和元年第20週〕の感染症発生状況

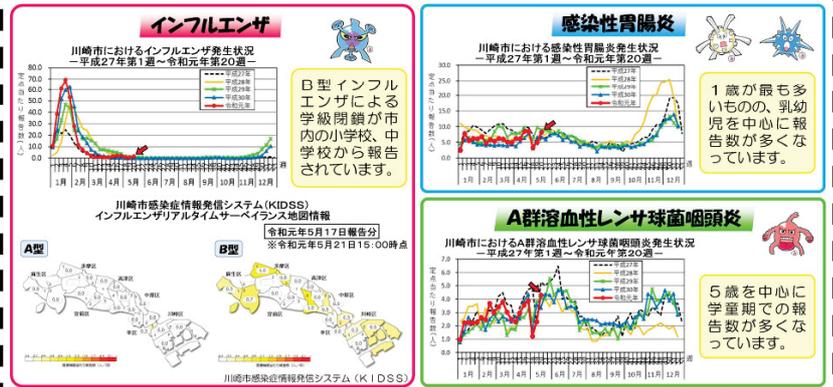
第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.22人と前週（5.16人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週（2.32人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は1.49人と前週（0.74人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



大型連休後の感染症発生状況

大型連休から2週間が経過し、川崎市では現在、インフルエンザや感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数が大幅に増加しています。特に小児での報告が多いため、集団施設での予防対策が重要です。

なお、インフルエンザについては、令和元年第20週（5月13日～5月19日）の定点当たり報告数が1.49人となり、流行開始の目安である定点当たり1.00人を超えたため、今シーズン3度目の流行期となりました。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年5月20日（月）～令和元年5月26日（日）〔令和元年第21週〕の感染症発生状況

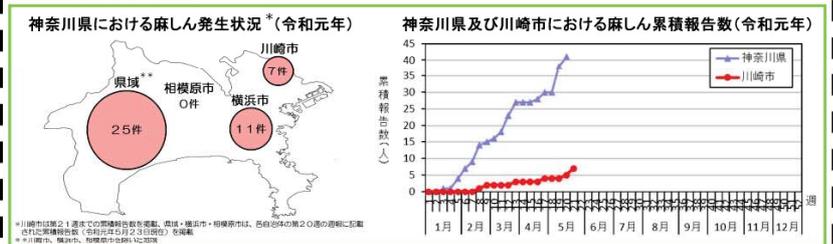
第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.30人と前週（8.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.57人と前週（4.32人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.77人と前週（1.49人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



神奈川県内でも麻しん（はしか）の報告数が増加しています！

現在、首都圏など大都市を中心に麻しんの患者報告数が増加しています。神奈川県内でも令和元年第20週（5月13日～5月19日）までに41件の報告があり、今年の1月下旬以降報告数が増えています。川崎市においては、第21週（5月20日～5月26日）に麻しんの報告が2件あり、計7件となりました。

定期予防接種の対象の方は出来るだけ早く接種を済ませ、今までに接種歴及び罹患歴のいずれもない方はワクチン接種を御検討いただき、麻しんの感染や重症化を防ぎましょう。



麻しんに感染した疑いがある場合には、事前に電話で症状や流行地への旅行歴、麻しん患者との接触歴などを伝えた上で、医療機関を受診しましょう。また、受診の際は、事前に母子健康手帳でワクチン接種歴を確認し、必ず主治医に伝えてください。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年5月27日(月)～令和元年6月2日(日)〔令和元年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.97人と前週(7.30人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.46人と前週(3.57人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週(0.67人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

★大腸菌O157★
イコロくん



夏に向けて注意したい感染症 ～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌に感染することで発症し、頻回の水様性下痢や血便、激しい腹痛などの消化器症状を引き起こします。また、小児や高齢者は溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの重症合併症を起こすことがあるため、特に注意が必要です。例年6月から9月にかけて全国的に患者数が増加するため、予防対策を徹底しましょう。

- 【感染経路】
- ・菌に汚染された食品などによる経口感染
 - ・患者の便を介した二次感染
 - ※食事前や排便後などには手洗いを徹底する。
- 【潜伏期間】
- 2～14日間(平均3～5日間)

【食中毒の予防対策】

一野菜編一

生で食べる野菜



1枚ずつはがして
流水でよく洗う。



ブロッコリーやカリフラワーなど
熱湯で湯がく。

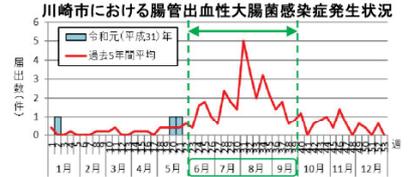
一肉編一



中心温度75℃、1分以上加熱



肉を焼く際には、専用のトンブや箸を使う。



川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
問い合わせ先 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

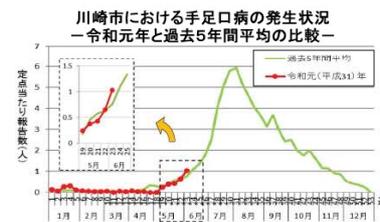
令和元年6月3日(月)～令和元年6月9日(日)〔令和元年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.36人と前週(7.97人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.47人と前週(3.46人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.11人と前週(0.89人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

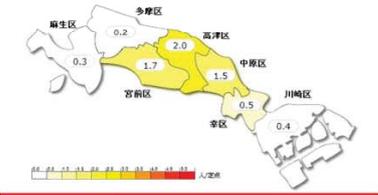


手足口病 ～報告数が徐々に増加しています～

手足口病は、乳幼児を中心に夏に流行するウイルス性の感染症です。川崎市では、5月中旬から手足口病の報告数が徐々に増加しており、令和元年第23週(6月3日～6月9日)の定点当たり患者報告数は1.03人となりました。現在、中原区や高津区、宮前区からの報告が多く、保育園での集団発生も確認されています。ウイルスは便中に長期間排泄されることもあるため、トイレやおむつ交換の後は排泄物を適切に処理し、念入りに手を洗いましょう。また、タオルの共用なども避けましょう。



川崎市における手足口病マップ(令和元年第23週)



まれに重症化し、無菌性髄膜炎や脳炎・脳症、筋炎、心筋炎などの合併症を引き起こすことがあります。

手足口病の症状

- ・手のひら、足の裏、口の中などに水疱性の発疹、発熱(38℃以下のことが多い)
- ・通常は軽症
- ※特異的な治療法はありません。
- ※脱水に注意し、水分をこまめにとりましょう。

川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)
問い合わせ先 044-276-8250

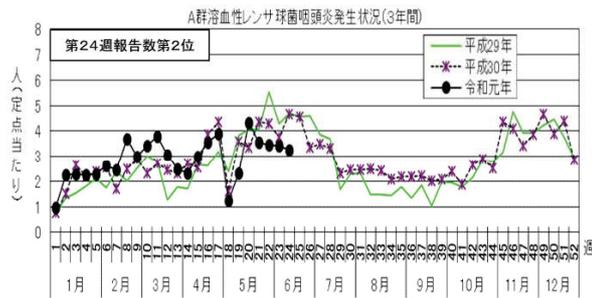
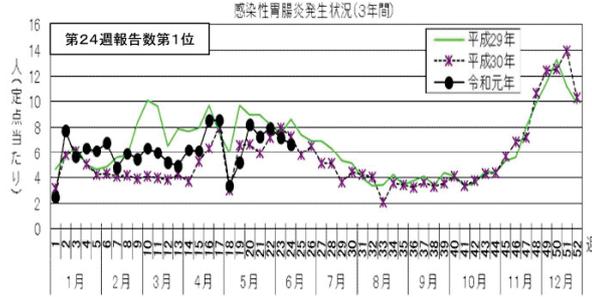
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年6月10日(月)～令和元年6月16日(日)〔令和元年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.69人と前週(7.22人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.25人と前週(3.41人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.00人と前週(1.11人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

★風しんウイルス★
ルベラくん



風しんの追加的対策-風しん(第5期)予防接種-

川崎市では、国の方針に基づく風しんの追加的対策として、平成31年4月から対象の男性に対して風しんの抗体検査を実施し、検査の結果「風しん抗体がない※」方に対して予防接種を実施しています。※抗体の基準は川崎市ホームページをご覧ください。対象の方はクーポン券を利用し、是非風しん抗体検査を受けてください。

風しん(第5期)予防接種の概要

対象者：昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性
実施期間：平成31年4月10日～令和4年3月31日
費用：無料
実施機関：川崎市ホームページをご覧ください。

問い合わせ先

川崎市予防接種コールセンター
電話：044-330-6940
受付日時：8時30分～17時15分
月曜日から金曜日まで
(祝日、年末年始除く)

風しん抗体検査・予防接種の流れ

1. クーポン券の送付

抗体検査及び予防接種を受けるには、「クーポン券」が必要です。
※対象者のうち昭和47年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた方には、すでにクーポン券を送付済ですが、それ以外の対象者の方も川崎市予防接種コールセンターに御連絡いただければクーポン券を発行いたします。

2. 風しん抗体検査

事前に実施機関に「クーポン券」を持っていることを伝えて予約し、受診当日は、「クーポン券」と「本人確認書類」を持参してください。

3. 風しん予防接種

接種日当日は必ず「クーポン券」を持参してください。
※川崎市では、抗体検査の結果クーポン券を利用できない方も、免疫が不十分であると判断された方にワクチン接種費用の一部助成を実施しています。詳しくは川崎市ホームページをご覧ください。

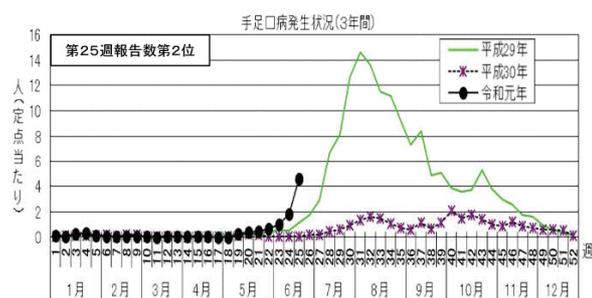
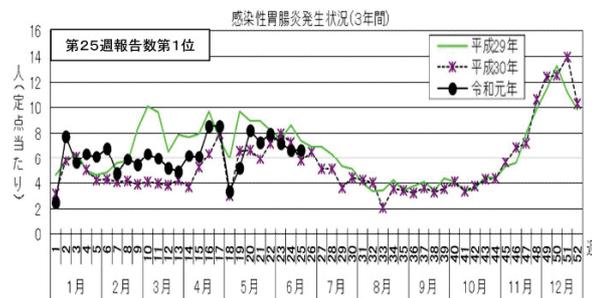
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年6月17日(月)～令和元年6月23日(日)〔令和元年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.70人と前週(6.69人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は4.57人と前週(1.81人)から増加し、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.78人と前週(3.25人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



手足口病の患者が急増しています！

川崎市における手足口病の定点当たり患者報告数は、第25週(令和元年6月17日～6月23日)に4.57人となり、第23週(令和元年6月3日～6月9日)の1.00人から2週間連続で急激に増加しました。

特に、川崎区と宮前区の定点当たり患者報告数が、それぞれ10.60人、6.83人と流行発生警報基準値(定点当たり5.00人)を超えており、市内の複数の保育園では集団発生も確認されています。

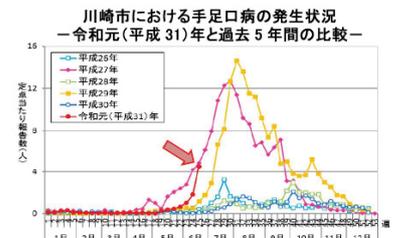
予防を徹底するとともに、小さいお子さんや高齢者の方は脱水に注意しましょう。

～予防と対策～

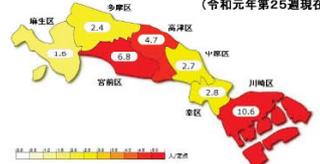
経口補水液などでこまめに水分補給

オムツ交換などの際は排泄物を適切に処理

流水と石けんで十分な手洗い



川崎市における手足口病の分布マップ(令和元年第25週現在)



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年6月24日（月）～令和元年6月30日（日）〔令和元年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は8.76人と前週（4.57人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.32人と前週（6.70人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.38人と前週（3.78人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



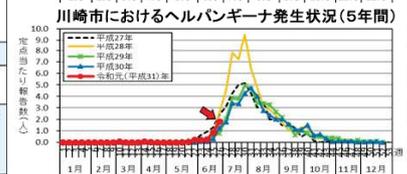
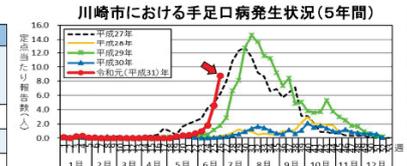
手足口病流行発生警報発令！

川崎市では、手足口病の令和元年第26週（6月24日～6月30日）の定点当たり報告数が8.76人となり、流行発生警報基準値（定点当たり5.00人）を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。

手足口病はヘルパンギーナとともに夏季に流行する疾患として知られていますが、通常は1年毎に交互に流行がみられます。今年はすでに、手足口病の患者報告数が急増しており、大きな流行が予測されます。また、ヘルパンギーナも今週の定点当たり報告数が1.81人と前週（定点当たり0.84人）から増加しており、今後の発生状況に注意が必要です。

手足口病、ヘルパンギーナの主な特徴

	手足口病	ヘルパンギーナ
病原体	コクサッキーウイルスA群（6型、16型）、エンテロウイルス71型など	コクサッキーウイルスA群（2型、4型）、コクサッキーウイルスB群、エコーウイルスなど
感染様式	飛沫感染、接触感染、糞口感染	
好発年齢	5歳以下の乳幼児	
主な症状	手のひら、足の裏、口の中などに水疱性の発疹、発熱（38℃以下のことが多い）	突然の高熱（38～40℃）、咽頭痛（のどの痛み）、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍
経過	通常は軽症	通常は2～4日程度で解熱
合併症	まれに髄膜炎や脳炎など	熱性けいれん、まれに髄膜炎や心筋炎など
予防対策	・トイレやおむつ交換後の排泄物の適切な処理及び流水による念入りな手洗い ・経口補水液などでこまめに水分補給 ・タオルの共用は避ける	



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年7月1日（月）～令和元年7月7日（日）〔令和元年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は15.27人と前週（8.76人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.84人と前週（6.32人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.35人と前週（1.81人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加しています！

腸管出血性大腸菌感染症は、毒素を産生する遺伝子を持つO157やO26などの大腸菌の感染によって起こる消化器感染症です。

5月中旬以降、全国的に報告数が増加しており、集団発生事例や死亡事例なども報告されています。川崎市では、集団発生事例の報告はないものの、6月中旬以降毎週1～2名の患者が発生しており、今年は令和元年第27週（7月1日～7月7日）までに計10件の届出がありました。

例年、気温の上昇とともに患者数が増加するため、引き続き手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

- 【感染経路】
菌に汚染された食品などによる経口感染
患者の便を介した二次感染
 - 【潜伏期間】
1～14日間（平均3～5日間）
 - 【主な症状】
激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など
※無症状のこともあります。子供や高齢者では、溶血性尿毒症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を起こしやすいといわれています。
- 激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。**



- 【予防対策】
- ✓ 生肉や加熱不十分な肉を食べない。（加熱は75℃で1分以上）
- ✓ 肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
- ✓ 生野菜などは流水でよく洗う。
- ✓ 食事の前、排便後などは流水で念りに手を洗う。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年7月8日(月)～令和元年7月14日(日)〔令和元年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は21.58人と前週(15.27人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.03人と前週(4.84人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.58人と前週(3.35人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



手足口病の患者報告数が過去最多に！

川崎市では、令和元年第28週(7月8日～7月14日)の定点当たり患者報告数が21.58人となり、現在の調査方法となった平成11年第14週以降、過去最多となりました。特に1～2歳の小児が全体の57.8%を占めており、市内の複数の保育園などでは集団発生事例も報告されています。

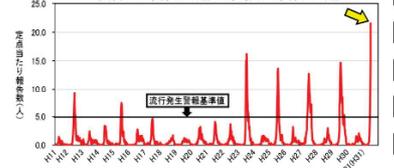
手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルスA群(CA)、エンテロウイルス71型など様々ですが、今年はCA6型が多く検出されており、大きな流行があった平成27年や平成29年と同様の傾向がみられます。

学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
 【手足口病と診断された保育園児等報告数*】

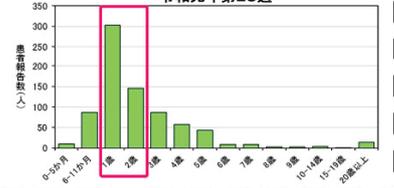


令和元年7月16日(火)
 (令和元年7月17日 13:00時点集計)
 ※川崎市感染症情報報告システム(KIDSS)
 水疱性の発疹が多数みられ、水痘を疑う事例も報告されています。

川崎市における手足口病発生状況
 -平成11年第14週～令和元年第28週-



川崎市における年齢階級別手足口病発生状況
 -令和元年第28週-



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
 (福祉事務所・保健所支所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年7月15日(月)～令和元年7月21日(日)〔令和元年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は19.94人と前週(21.58人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.78人と前週(5.03人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.58人と前週(4.58人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



抗菌薬の正しい使い方を知っていますか？～薬剤耐性(AMR)～

薬剤耐性(AMR)とは、抗菌薬の使用に伴って病原体(細菌)が変化し、特定の種類の抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることです。

通常、かぜ(感冒)はウイルスが原因であるため抗菌薬は効きません。必要のない抗菌薬の服用は、効果がないだけでなく、副作用を起こしたり薬剤耐性菌の発生にもつながります。抗菌薬の間違った服用により薬剤耐性菌を増やさないためにも、抗菌薬を正しく理解し、適切に使うことが大切です。

《症状別の抗菌薬の使用について》

- かぜ(感冒): 抗菌薬は不要
- のど(急性咽喉炎): A群溶血性レンサ球菌咽頭炎による場合は抗菌薬が必要
- はな(急性鼻副鼻腔炎): 中等～重症は抗菌薬を検討
- せき(急性気管支炎): 百日咳を除き成人は抗菌薬不要

《抗菌薬の正しい使い方について》

- 抗菌薬は医師の指示通り飲み続けよう
- 抗菌薬を勝手にとっておかない
- 抗菌薬をもらうには医師の処方箋が必要
- 抗菌薬をあげたり、もらったりしない
- わからないことは医師や薬剤師に聞きましょう

《薬剤耐性の脅威を知っていますか？》

現在、薬剤耐性によって世界では年間70万人が死亡しており、このまま今の対策も講じなければ、2050年には約1000万人が死亡するとされています。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
 (福祉事務所・保健所支所)
 (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年7月22日(月)～令和元年7月28日(日)〔令和元年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)ヘルパンギーナ 3)感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は21.00人と前週(19.94人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.47人と前週(3.58人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.36人と前週(3.78人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

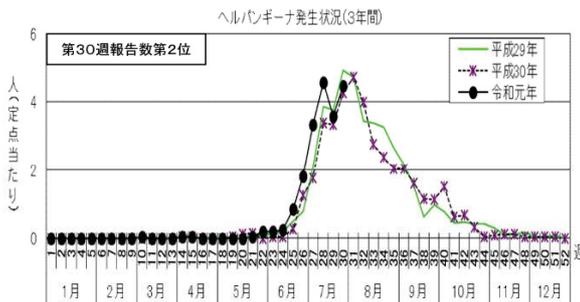
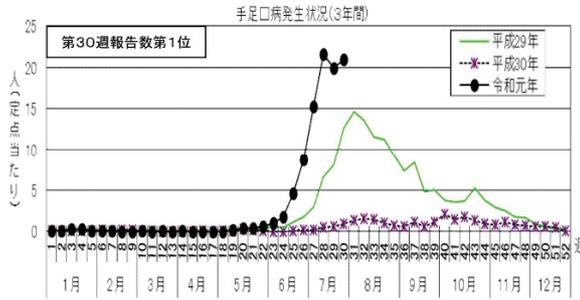
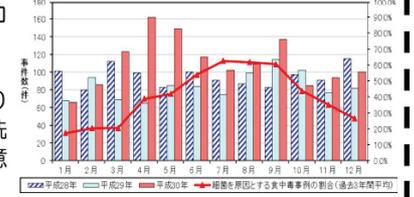


～食中毒警報が発令されました！！～

神奈川県では、気象条件等の解析結果から食中毒発生の可能性が高まったため、**令和元年7月30日(火)に食中毒警報を発令しました。**今年は昨年より11日遅い発令日となりました。

夏季は気温や湿度が高くなり、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌(O157、O111など)、黄色ブドウ球菌などの細菌を原因とする食中毒が起こりやすくなります。家庭内での食中毒を防ぐため、手洗いの徹底や食品の取扱いなどには十分注意しましょう。

全国における月別食中毒発生状況(平成28年～平成30年)



食中毒予防の3原則

つけない

手洗いの徹底！

器具の使い分け！

増やさない

低温で保存！

やっつける

十分な加熱！

器具の消毒！

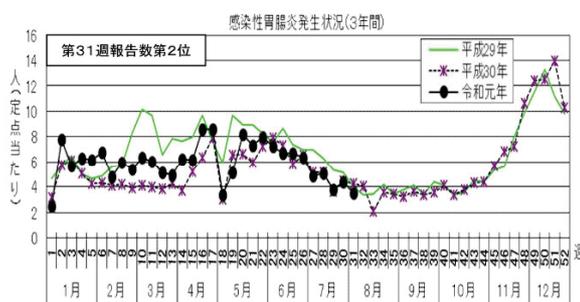
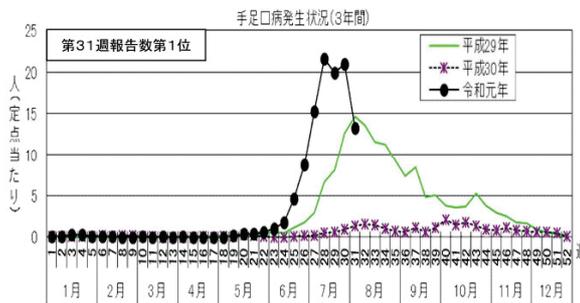
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年7月29日(月)～令和元年8月4日(日)〔令和元年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は13.26人と前週(21.00人)から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.53人と前週(4.36人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.12人と前週(4.47人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



夏も気を付けたい感染症～RSウイルス感染症～

RSウイルス感染症は、発熱や咳、鼻水を主症状とする呼吸器感染症で、2歳までにほぼ100%の児が、少なくとも1度は感染するといわれています。

川崎市では第28週から定点当たり報告数が急増しており、第31週(7月29日～8月4日)の定点当たり報告数は1.53人と前週よりやや減少したものの、依然として患者報告数が多い状況が続いています。

RSウイルス感染症とは？

【感染経路】咳や鼻水などによる飛沫・接触感染【潜伏期間】2～8日(典型的には4～6日)
 【症状】発熱・咳・鼻水などの風邪様症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などの症状がでて、細気管支炎や肺炎へと進展するお子さんもいます。

予防対策

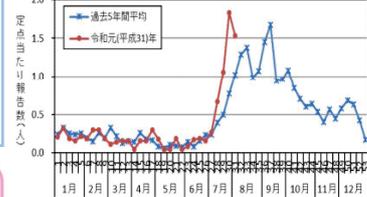
手洗いの徹底

おもちゃは消毒後、必ず流水で洗浄

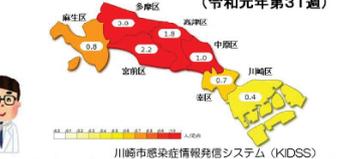
飛沫感染予防として、大人はマスク着用

生後3か月以下の乳児やリスクの高い基礎疾患を有する小児(特に早産児、生後24か月以下で心臓や肺に基礎疾患のある小児、神経・筋疾患や免疫不全の基礎疾患を有する小児)では重症化することがあります。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況 令和元年と過去5年間平均の比較



川崎市におけるRSウイルス感染症マップ (令和元年第31週)



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年8月5日（月）～令和元年8月11日（日）〔令和元年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)RSウイルス感染症 3)感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は7.76人と前週（13.06人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.42人と前週（1.51人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.18人と前週（3.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



E型肝炎をご存知ですか？

川崎市では、6月中旬からE型肝炎の患者報告数が増加し、今年は第32週（8月5日～8月11日）までの患者報告数が14人と、過去10年間で最多となりました。鹿肉をはじめ、加熱不十分な肉やレバーなどが感染原因と推定された患者の報告も複数みられました。E型肝炎は、比較的前後が良好な疾患ですが、妊婦が感染すると重症化しやすいといわれています。レバーなどの内臓肉を含め、肉は十分に加熱し、手洗いを徹底するなど予防対策を心がけましょう。

E型肝炎とは？

【感染原因・経路】

E型肝炎ウイルス

- ・生や加熱不十分な動物の肉や内臓
- ・汚染された飲料水等

【潜伏期間】

15～50日（平均6週間）

【主な症状】

発熱、悪心・腹痛等の消化器症状、全身倦怠感、食欲不振、黄疸

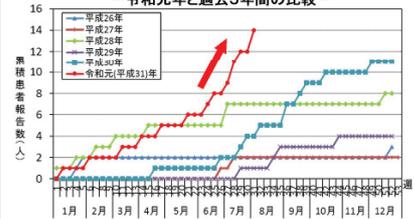
【治療】

特異的な治療法はなく、対症療法が中心

妊婦は劇症肝炎になりやすく、致死率が20%にも達することがあるといわれています。

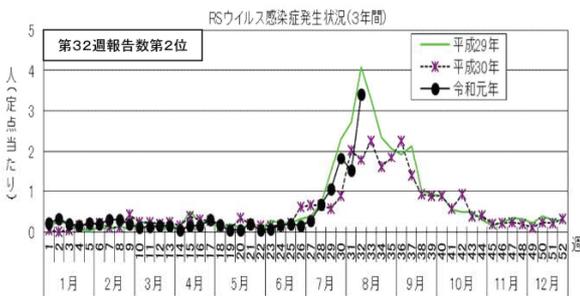
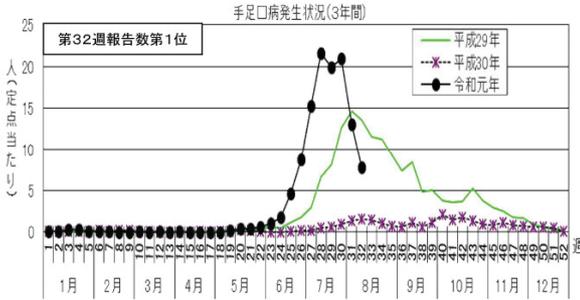
川崎市におけるE型肝炎累積報告数の推移

—令和元年と過去5年間の比較—



予防対策

フタやシカ、イノシシなどの肉や内臓肉の摂取により感染した例が多くみられるため、食肉の十分な加熱、生肉に触れた食器や箸などを使用しないなどの予防が重要です。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年8月12日（月）～令和元年8月18日（日）〔令和元年第33週〕の感染症発生状況

第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)RSウイルス感染症 3)感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は5.57人と前週（7.51人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.91人と前週（3.46人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.43人と前週（3.06人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



帰国後の体調不良にご用心！

海外から帰国した後に、体調不良を訴える方は比較的多いといわれており、中でも発熱や発疹、下痢などの症状がよくみられます。

海外旅行後には思わぬ感染症が潜んでいる可能性があります。体調不良がみられた際は早めに医療機関を受診し、症状だけでなく旅行先や旅行期間、旅行中の行動、旅行前の予防接種歴等を必ず医師に伝えましょう。

旅行後の発熱

海外から帰国後、発熱することは多く、特に発展途上国から帰国した人の2～3%に発熱がみられるといわれています。

《発熱をきたす感染症》
 デング熱、マラリア、麻しん、風しん、ジカウイルス感染症等

発疹等の皮膚症状

皮膚症状は、海外旅行で最も頻りにみられる症状の一つです。発熱も同時にみられる場合、全身の感染症を伴っていることが多いため、注意が必要です。

《発疹をきたす感染症》
 デング熱、麻しん、風しん、ジカウイルス感染症等

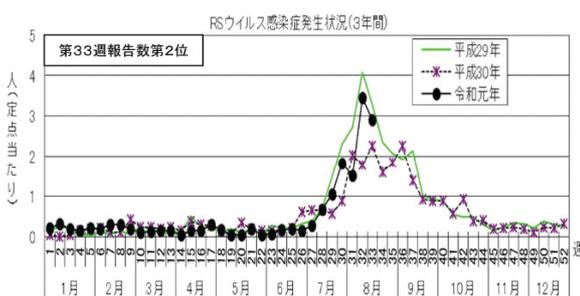
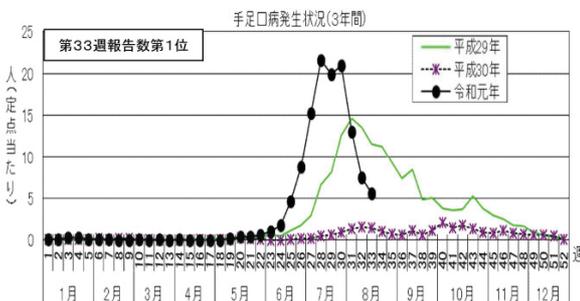
止まらない下痢

海外旅行者の半数以上が旅行先で下痢になります。数日でおさまることも多いですが、帰国後も症状が続く場合もあります。

《下痢をきたす感染症》
 細菌性赤痢、コレラ、腸チフス等

～フィリピンでデング熱が流行しています～

フィリピン保健省は8月6日、デング熱の全国的な流行を宣言しました。フィリピンでは、今年の1月から7月20日までのデング熱の感染者が昨年同時期と比べて98%増加して14万6062人となり、662人の方が死亡しています。
 長袖・長スボンの着用や虫よけスプレーの使用等により蚊に刺されないようにするとともに、万一発症した場合には早期に医療機関を受診するよう注意喚起が行われています。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域みまもり支援センター
（福祉事務所・保健所支所）
 （問い合わせ先） 044-276-8250